

経営比較分析表（平成30年度決算）

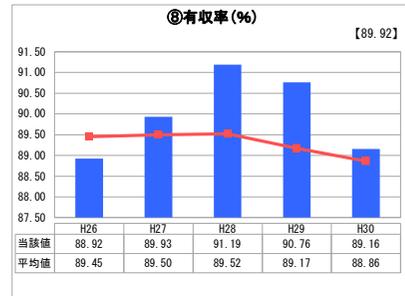
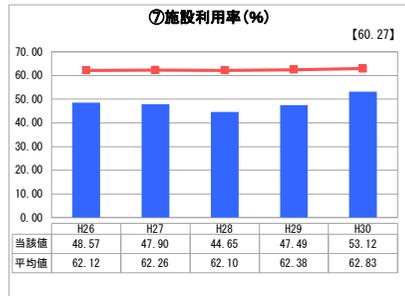
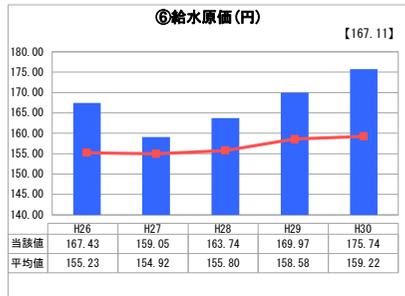
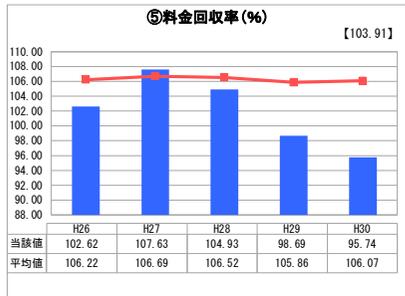
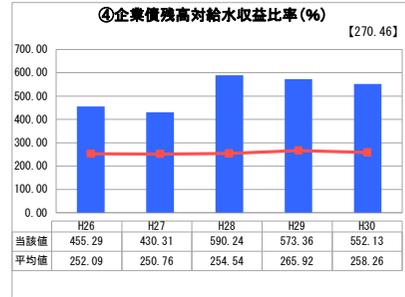
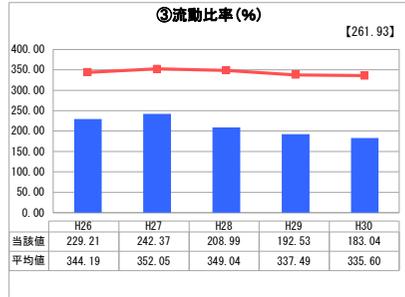
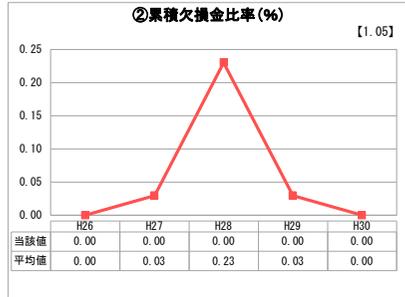
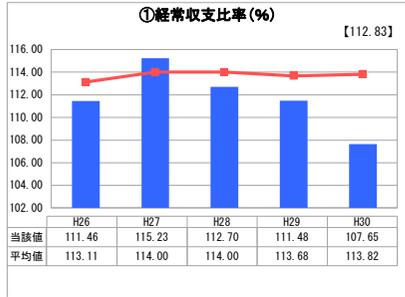
山口県 周南市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A3	自治体職員 その他
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	56.51	90.74	2,840	

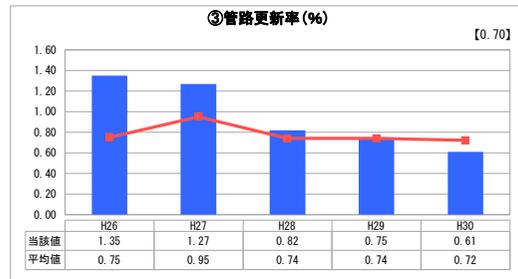
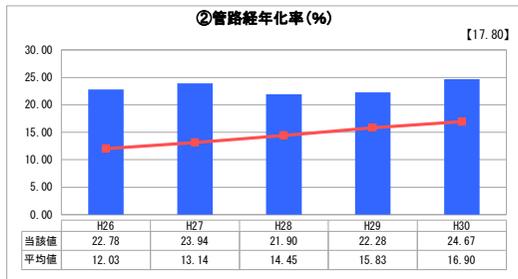
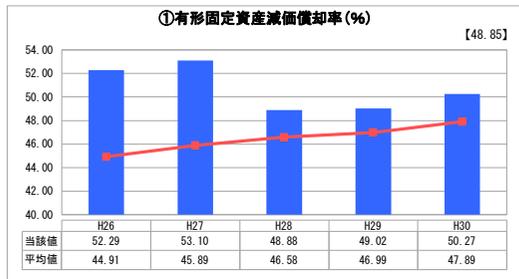
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
143,827	656.29	219.15
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
129,857	98.70	1,315.67

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率
類似団体平均値を下回っているが、100%を上回っており経営状況は健全な水準にある。

②流動比率
100%を上回っており健全な経営状態である。類似団体平均値と比較すると下回っているが、200%近い数値であるため、支払能力に問題はない。

③流動比率
類似団体平均値と比較すると大幅に高い。合併等により複数の浄水場及び水源を有するうえ、平成28年度末に熊毛地区水道事業、鹿野簡易水道事業を水道事業に統合したため、企業債残高が大幅に増加した。借入額と償還額を調整し、残高の減少に鋭意取り組んでいる。

④企業債残高対給水収益比率
類似団体平均値かつ100%を下回っている。これは水道事業に統合した熊毛鹿野地区において、平成29年4月1日から平成31年4月1日までの3年間、水道料金を段階的に引き上げる緩和措置の影響のためである。なお、当該緩和措置の終了する令和元年度以降については、料金回収率が100%に近づいていく見込みである。

⑤料金回収率
類似団体平均値と比較すると高い。合併や熊毛地区水道事業統合等により複数の浄水場と水源を有し、維持管理費用等がかかるため給水原価が高くなっている。

⑥給水原価
類似団体平均値と比較すると低い。配水量が平成4年度をピークに大幅に減少し続けて施設利用率が低かったが、一井手浄水場の浄水処理を中止し、岩川浄水場の給水ブロックに統合することで施設の有効利用が図られた。

⑦施設利用率
類似団体平均値と比較すると低い。配水量が平成4年度をピークに大幅に減少し続けて施設利用率が低かったが、一井手浄水場の浄水処理を中止し、岩川浄水場の給水ブロックに統合することで施設の有効利用が図られた。

⑧有収率
類似団体平均値と比較して若干高い。漏水調査や漏水回数が多い管路の布設替等の対策により有収率が増加した。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率
類似団体平均値と比較すると高い。本市水道事業は、創設が早く、施設が古いため、有形固定資産減価償却率が高い傾向にある。

②管路経年率
類似団体平均値と比較すると高い。本市水道事業は、創設が早く、老朽管が多いため、管路経年率が高い傾向にある。

③管路更新率
類似団体平均値と比較すると若干下回っている。本市水道事業は、管路経年率が高いため、老朽管更新工事を鋭意進めているが、管路の経年化に追いついていない状況である。

全体総括

現状における経営状況は、比較的良好である。ただし、類似団体平均値と比較すると次の3点において課題があるため、対策を進めている。

①企業債残高の削減
平成22年度末残高133億円から平成27年度末残高106億円と着実に企業債の削減を図ってきたが、熊毛地区水道事業、鹿野簡易水道事業の統合に伴い、平成29年度末残高151億円となったため、今後も借入額と償還額を考慮しながら計画的に企業債の削減を図っていく。

②施設維持管理費の抑制
合併及び熊毛地区水道事業、鹿野簡易水道事業の統合により維持管理費等の経費が増大しており、仕様、発注方法等更なる見直しを図り、費用抑制に努めていく。

③老朽化対策
これまで削減事業を大幅に進めてきたが、管路経年率の上昇に追いついていない状況である。今後も、財政状況を踏まえながら、優先度の高い重要箇所を中心に管路の更新を進めていく。